

平成 30 年度第 1 回 (一社) 日本生物物理学会理事会議事次第

日時 : 2018 年 6 月 23 日 (土) 14 : 00 ~ 17 : 00

場所 : 新大阪丸ビル新館 8 階 804 号室

出席者 : 理事総数 17 名 出席理事 17 名 (代表理事を含む)

代表理事 (会長)	神取 秀樹	理事 (副会長)	高田 彰二
理事 (副会長)	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	大上 雅史
理事	須藤 雄気	理事	諏訪 牧子
理事	豊島 陽子	理事	中井 孝尚
理事	西坂 崇之	理事	林 重彦
理事	原田 慶恵	理事	坂内 博子
理事	光武 亜代理	理事	宮田 真人
理事	渡邊 宙志		

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事 木寺 詔紀

監事 七田 芳則

オブザーバー :

邦文誌編集委員長	佐甲 靖志
欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	金城 玲
平成 30 年度年会実行委員	梅名 泰史
平成 31 年度年会実行委員長	永井 健治
中部支部 支部長	廣明 秀一
選挙管理委員会	北尾 彰朗・古田 忠臣

陪席者 :

会長室	神瀬 麻里子
学会事務局	向井 牧子

議長 : 代表理事 (会長) 神取 秀樹

議事録作成者 : 理事 坂内 博子

## 審議および報告事項

### 報告事項：

1. 定時社員総会の報告（神取）
2. 平成 30 年度年会準備状況（須藤・梅名） :報2
3. 平成 31 年度年会準備状況（永井） :報3
4. 二国間シンポジウム（台湾）報告（神取） :報4
5. 出版委員会報告（野地） :報5
6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田） :報6
7. 企画啓蒙活動報告（中井・原田） :報7
8. 平成 31・32 年度会長候補者意向聴取選挙・代議員選挙結果報告（北尾・古田）  
:報 8（当日配布）
9. IUPAB・ABA関連報告（野地）
10. 会員除籍と会員数の報告（光武・大上） :報10
11. シニア会員制度に関する表示の変更の報告（光武・大上） :報11
12. 地区報告  
北海道支部（神取）  
東北支部（神取）  
関東支部（神取）  
中部支部（廣明）  
その他

### 審議事項:

1. 出版委員会関連議題（野地） :議1
2. 第 7 回 BPPB 論文賞授賞論文の承認について（石渡） :議2
3. 男女共同参画若手支援関連議題（高田）
4. 企画啓蒙活動議題（一家に 1 枚ポスターの改定）（中井・原田） :議4
5. シンポジウムでの非会員オーガナイザー、発表者について（光武・大上） :議5
6. 年会プログラム集表紙デザインについて（神取） :議6
7. 年会シンポジウムについて（林）
8. テレビ会議について（神取）  
その他

## 審議および報告事項

### 定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長 神取 秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 17 名により過半数を超えた。

### 定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

### 報告事項：

#### 1. 定時社員総会の報告（神取）

神取 氏から定時社員総会について報告があった。

- ① 1 時から 2 時までの定時社員総会において、1 号議案、2 号議案が承認された。
- ② 平成 30 年度の事業計画、予算が承認された。

#### 2. 平成 30 年度年会準備状況（須藤・梅名）：報2

沈 建仁 実行委員長の代理として須藤 雄気 氏、梅名 泰史 氏が 2018 年度の年会準備状況を報告した。

##### ■ 開催概要の報告があった

- ① ポスター、口頭発表の応募数について報告があった。
- ② ノーベル賞受賞者天野氏を招聘した市民講演会についての説明があった。現時点で、参加申し込みはそれなりにきているとのことである。
- ③ 日程案について、報告があった（報2 ①）。
- ④ 年会の登録状況について報告があった。現在、1,170 名の参加登録、516 名の懇親会参加申し込み、1,026 の演題登録がある。
- ⑤ 岡山市の宿泊施設予約状況について、現状の説明があった。懇親会会場となるロイヤルホテルは年会 HP に予約情報があるので、周知してほしいとのことであった。
- ⑥ 企業によるランチョンセミナー、展示会場の説明があった。岡山年会では、1 部屋に全部の展示がおさまるとのことである。
- ⑦ 収支予算について報告があった。
- ⑧ プログラムについて説明があった。シンポジウムは熊本年会より件数を減らし、午前中にシンポジウム、午後に発表（学生発表賞 1 日目）にまとめた。
- ⑨ アルバイト募集を開始した。年会 HP に当日運営スタッフ募集を掲載しており、HP からアルバイト応募できる。
- ⑩ 現在、岡山駅からのバスの増便について、バス会社と交渉中である。
  - ランチョンがあまり集まらなかったことに対する議論が行われた。高分子

討論会、NMR 討論会、物理学会、が近くの日程に行われることが原因だと思われる。前後に別の関連学会があることについては、これまで考えてこなかったが、今後年会を運営する上で、前後日程で他の関連学会が開催されるかどうかについても、注意すべきという意見がだされた。また、出店する立場の企業からすると、平日の方が都合がいいとの意見が理事からだされた。

- 年会予稿集を A4 版から A5 版に変更する点を確認した。表紙デザインについては、審議事項 6 にて議論した。

### 3. 平成 31 年度年会準備状況（永井） 報3

2019 年度年会の準備状況について永井 健治 氏より報告があった。

- ① 平成 31 年度年会のアウトラインの説明があった。アウトラインに基づいた、開催趣意書等の説明があった。
- ② 「祭り」をコンセプトにした年会作りを行う。年会のコンセプトが伝わるよう、（開催地ではなく）「メインビジュアル (p.10)」を提示することが示された。
- ③ 会計について。年会の実行委員 財務/庶務の担当者を変更した。
- ④ 発表枠について。8 部屋を用い、シンポジウム等 40 枠（学会シンポジウム、大型科研費、一般シンポジウム）を設ける予定である。
- ⑤ 「カレントトピック枠」（前理事会では「基調講演」としていた企画）を設置する。講演者は、分野別専門委員から厳選する。
- ⑥ ポスター枠は、1,128 演題が最大、900 演題が妥当と考えて企画している。
- ⑦ AE 企画に業務委託を行い、AE 企画が地元企業 ABC コーポレーションに再委託する形になる。
- ⑧ 参加費の値上げをしなくてよい見込みである。
- ⑨ 寄付・広告・展示・ランチョン・懇親会企業ブースについて。
  - 8:30-45 の枠に、「モーニングセッションピッチトーク（5分程度の宣伝）」を企画している。本企画について企業に事前アンケートをとったところ、企業側も、本企画を希望している、5 万円なら出せることがわかった。その費用で、軽食を提供する予定。
  - ランチョン：ランチョンセミナーを依頼する上で、企業の予算決定時期を考慮する必要がある。各企業の予算決定時期より「早めに」依頼することが重要である。
- ⑩ 開催趣意書に寄付を募る文章を入れて、寄付を募る（沖縄年会がモデル）。寄付の目標額は 200 万円。
- ⑪ 懇親会にも、企業に入っていただきたい。企業へのアンケートをとった結果、懇親会にブースをだせる、という回答が何社かあった。懇親会には、経費が出

しやすいとのことである。企業も先生と知り合えるというメリットあり。企業参加に伴い、懇親会参加見込人数が 600 名から 700 名に増えるが、収容可能な会場である。

- ⑫ 公開シンポジウム（市民講座）の講演依頼の経緯の説明があった。第一候補者（島津製作所・田中耕一氏）は社内の事情を理由に断られたため、これから、新たな候補者を探すところである。
- ⑬ 高校出前講座について。まずは今年度、宮崎西高校に年会実行委員が 2 名出前出張を行う（2018 年 11 月 17 日）。来年は別の実行委員が出前授業をする予定。
- ⑭ 公開シンポジウムとの連動企画、ジュニアセッションについて。現段階では、開催できるか未定。

年会実行委員から、以下の 7 つの確認事項が提出された。

- (1) 学生発表賞はポスター枠で限定しても良いか？
- (2) 年会終了後に一般向けの会議レポートを公開してはどうか？（分子生物学会の例を参考に）

- (3) 企業展示を 3 日正午までにできないか？

との確認事項に対しては、年会担当理事が、いずれも年会実行委員の判断で問題ない、と回答した。

- (4) 紫ページを廃止し、その予算を年会運営に利用できないか？

との確認事項に対しては、理事から、HP へのアクセスができない方へ配慮で残しているとの意見が出た。

- (5) 学生旅費補助についてどう取り扱うか？

との確認事項には、年会担当理事が、震災補助（参加費）は存在していると回答した。申請があれば事務局で受け付ける。6 月 18 日に発生した大阪北部地震に関して岡山年会に問い合わせがあり、それに対する対応について、岡山年会実行委員から報告があった。

(6) HP やメインビジュアルの作成料について、年会の予算でどのように計上されているか？との質問があった。年会担当理事より、年会企画運営担当会社への支出に計上されているとの回答があった。

(7) 年度をまたぐ経費（会場下見等）は、どう計上すればいいか？との質問に関しては、学会事務局より、申請時点で学会の会計から支出するとの回答があった。

その他、予算案の算定根拠、2 国間シンポジウムの相手国の確認、宿泊施設・移動手段、ピッチトークの収入の割合について議論が行われた。

#### 4. 台湾の生物物理学会における 2 国間シンポジウム報告：報 4

2018年5月23-25日に行われたThe 23rd Annual Conference of the Biophysical Society of R.O.C., National Chung Hsing University (Taichung, Taiwan) について、神取氏から報告があった。

開催の経緯、会の概要について、報告が行われた(報4)。今後の2国間シンポジウムについては、この報告書を雛形として、理事会に報告することを合意した。謝礼の扱いについては、今回の台湾の例を参考に、ケースバイケースで対応することを確認した。

#### 5. 出版委員会報告(野地) :報5

- ・ 会誌編集委員会議題
- ・ HP 編集委員会議題

野地 博行氏より出版委員会の報告があった。

##### ■ 邦文誌に関して

- ① 邦文誌担当理事を交代した。
- ② 現状では記事をかけない編集委員が会誌に投稿できるよう、内規を策定する議論を進めている。
- ③ 「若手の会だより」は会誌担当理事からの依頼であることを明確にする。

##### ■ 欧文誌に関して

- ① BPPB の投稿数の報告があった。
- ② PDF のダウンロード数について報告があった。
- ③ BPPB の論文賞、Editor's Choice Award の候補について報告があった。
- ④ Editor's Choice Award 選考委員に伝える内規について、報告があった。

##### ■ HP について

- ① HP 委員長の交代の報告があった。
- ② この変更に伴い、HP 担当理事を交代することを決定した。
- ③ 新しいHPは8月ごろ公開予定である。

#### 6. 男女共同参画・若手支援委員会報告(高田) :報6

高田 彰二氏より男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。

- ① 岡山年会における、キャリア支援シンポジウムと個別相談ブースの設置について、報告があった。
- ② 岡山年会の男女若手のシンポジウム「世代間ギャップから見えてくる今必要な若手研究者支援」の具体的な企画案(司会者、プログラム等)について、報告があった。

- ③ 女子中高生夏の学校でポスター発表をする。
- ④ 年会での第3回学生発表賞について、年会での選考プロセス・応募者数の報告があった。これから審査委員を選考する。
- ⑤ 若手奨励賞・若手招待講演者賞の募集が行われた。

#### 7. 企画啓蒙活動報告（中井・原田） :報7

企画啓蒙活動について、中井 孝尚 氏より報告があった。

- ① 高校への出張授業について、リーフレット送付状況、申し込み状況、問い合わせ状況の報告があった。
- ② 交通費についてと、一人の講師が引き受ける授業の回数について、議論が行われた。

#### 8. 平成 31・32 年度会長候補意向聴取選挙と代議員選挙について :報 8

北尾 彰朗 氏・古田 忠臣 氏より会長候補意向聴取選挙と代議員選挙に関する報告があった。

- ① 代議員投票のスケジュールについて説明があった。
- ② 会長候補意向聴取選挙の結果の報告があった。
- ③ 代議員選挙の開票結果が報告された。

#### 9. IUPAB・ABA 関連報告

野地氏より、ABA についての報告があった。

- ① 生物物理学会から、若手の派遣サポートがあることを周知してほしい。

#### 10. 会員除籍と会員数の報告（光武・大上） :報10

光武氏から、督促結果の報告があった。

- ① 会員数の推移について報告があった。正会員 66 名の減少。

#### 11. シニア会員制度に関する表示の変更の報告（光武・大上） :報11

大上氏・光武氏から、シニア会員制度に関する報告があった。

- ② HP にシニア会員の情報を追加した。
- ③ 海外シニア会員が必要かどうかを判断していただきたい。去年は、海外のシニア会員の実績がある。英語版はない。
  - 会員数の減少原因に関する議論が行われた。
  - 学生会員も、シニア会員も「正会員」であることを確認した。

#### 12. 地区報告

北海道支部（神取）

東北支部（神取）

関東支部（神取）

中部支部（廣明）

- 神取 氏より北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部の活動について報告があった。
- 廣明 秀一 氏より中部支部の活動について報告があった。  
前回報告のとおり。
- 地方支部会のあり方について、議論が行われた。学生の経済的問題があること、地方支部会は、年会で発表できない「日本語」での発表できる場として意義があること、また、会員の交流の場として機能しているとの意見が出た。

#### 審議事項：

##### 1. 出版委員会関連議題（野地） : 議1

- ・ 欧文誌編集委員会議題
- ・ HP 編集委員会議題

- ① 科研費の用途について、審議を行った。（資料1）
- ② 今後、仮の IF を算定して（業者に依頼）、公表する計画である。
- ③ 依頼原稿については、現在だれに依頼するかを編集委員の間で議論している。
- ④ HP の拡充については、学会全体の HP の充実と連携して行なっている。
  - 記事数を増やすために、*Biophysical Journal* と差別化する、投稿したくなるような魅力を打ち出す必要性、若手奨励賞受賞者に投稿をリマインドする必要性が議論された。

##### ⑤ 欧文誌 BPPB 編集委員（委員長を含む）の交代について（資料2）

出版委員会から、欧文誌編集委員長の新しい編集長の選出について提案があった。欧文誌編集委員長規約について説明があった。再来年1月着任となる。規約に基づき新しい編集長の選出を進めることが、理事会にて承認された。これから候補者の推薦、投票等のプロセスをすすめていくことで合意した。

##### 2. 第7回 BPPB 論文賞受賞論文の承認について（石渡） : 議2

石渡氏より、BPPB 論文賞受賞論文選考の過程について説明があった。授賞理由に関しては、今後英語にしてHPなどで公表する方針で合意した。

第 7 回 BPPB 論文賞受賞論文を、理事会として承認した。

- 過去の受賞論文の授賞理由も、英語で公表する方針を決定した。

### 3. 男女共同参画若手支援関連議題（高田）

高田氏より、H30 年第 14 回若手奨励賞選考過程について説明があり、委員会案を理事会で承認した。

### 4. 企画啓蒙活動議題（一家に 1 枚ポスターの改定）（中井・原田）：議 4

H26 年度に採用された「動く！タンパク質」のポスターを、改訂、あるいは新規のアイディアで提出するかどうかについて、来年度以降の方針を決める議論を行った。

改訂の必要があるかも含めて、前回の関係者の意向を聞く方針を理事会で承認した。新規の案も提案された。

### 5. シンポジウムでの非会員オーガナイザー、発表者について（光武・大上）：議 5

光武氏から非会員オーガナイザー発表者についての現状についての説明があった。全体として、シンポジウム発表者・非会員が 35%程度である。また、8 割のシンポジウムは 5 割以上のシンポジストが会員であるが、多くはないとはいえ非会員が多いシンポジウムも存在する。この状況を踏まえ、「生物物理学会」としての内規案の提案があった。

賛否があり、理事会では、引き続き議論を継続することとなった。

### 6. 年会プログラム集表紙デザインについて（神取）

3つの表紙案から、多数決により1つのデザイン案を選定した。

### 7. 年会シンポジウムについて（林）

林氏より、年会シンポジウムについて、提案があった。

前回の理事会での議論を踏まえ、今年度は、「生物の物理的境界」（生物をモノと分けているものは何か？）をテーマとして選定し、フォーマットが紹介された。

上記提案を理事会として承認した。

### 8. テレビ会議について（神取）

メール審議とする。

## 連絡事項

### 1. 次回理事会日程について（神取）

2018 年度（平成 30 年度）第 2 回理事会

日時：2018 年 9 月 15 日（11:45～12:35）

場所：岡山大学（第 56 回生物物理学会年会 会期中）

原則、理事会は第三土曜日、総会は 6 月第四土曜日に行う。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 17:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 30 年 6 月 23 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 30 年度第 1 回理事会

代表理事 神 取 秀 樹 (印)

監事 木 寺 詔 紀 (印)

監事 七 田 芳 則 (印)